

カンショ新品種「ベニオトメ」について

*久木村 久・小巻克巳・吉永 優・日高 操

(九州農業試験場・*鹿児島県バイオテクノロジー研究所)

Hisashi KUKIMURA, Katsumi KOMAKI, Masaru YOSHINAGA and Misao HIDAHA :
A New Sweetpotato Cultivar "Beniotome"

青果用カンショの主力品種は「高系14号」であるが、センチュウ及び帯状粗皮病などに弱く、商品性の高いイモの生産が困難であるところから、新品種の育成が望まれていた。今回育成された「ベニオトメ」は、「高系14号」より外観品質に優れ、耐病虫性であるため、1990年から長崎・鹿児島両県において奨励品種に採用され普及に移された。そこで本品種の育成経過並びに特性の概要を報告し、普及の参考に資する。

1. 来歴及び育成経過

「ベニオトメ」は、1981年に青果用に適したいもの形状、赤紅色の皮色をもち、多収性の「九州88号」を母とし、耐病虫性に優れた「九系7674-2」を父とした交配を行い、その交配組合せから選抜育成した品種である。昭和62年から地域適応性を検定し、平成2年6月に農林水産省新品種「かんしょ農林43号」として命名登録された。

2. 特性の概要

本圃における地上部は匍匐型、頂葉色は淡緑で、葉色は緑、葉形は三角形である。茎はやや細く、茎長はやや長である。茎及び節は微程度に着色する。しょ梗の長さ及び強さは中である。

いもの皮色は赤紅色、形状は長紡錘形、大きさは中で、形状・大小の整否はともに整である。条溝、裂開、皮脈ともに無であり、外観はやや上である。いもの揃いや外観品質に優れるため、商品化率が高い。

むしいもの肉色は黄白、肉質は粉質で、繊維の多少は中である。食味は「高系14号」より優れ、「コガネセンガン」並みの上である。

上いも収量は早掘栽培、標準栽培のいずれにおいても育成地で「コガネセンガン」、「高系14号」、長崎及び鹿児島両県では「高系14号」より多収である。1株上いも個数はやや多い。

萌芽数は多、萌芽の遅速は早、揃いは良で、萌芽性は良である。

貯蔵性は「コガネセンガン」、「高系14号」よりも優れ、易である。

3. 適地及び栽培・利用上の注意

上いも収量、商品化率ともに高く、耐病虫性にも優れるところから、広く西南暖地のかんしょ作地帯に適し、特に長崎県及び鹿児島県では離島を含む全域のかんしょ栽培地帯でそれぞれ300及び1,000haの普及が見込まれている。

本品種の地上部は微弱な巻つる性を有するので、採苗時期が遅れないよう作業計画を立てることが必要である。ミナミネグサレセンチュウ抵抗性が中であるので、本センチュウ害の激発地での栽培を避ける。また、マルチ栽培により、しょ梗がやや長くなりやすいので、いもの切断などが起こらないよう掘取は注意深く行う。さらに、栽培条件によっては、むしいもの品質が低下することがあるので適地を結ぶ。

4. 命名の由来及び育成従事者

皮色が紅色で美しい乙女のようなすなりとした形状をしていることによる。

育成従事者：久木村 久・小巻克巳・吉永 優・日高 操・坂本 敏・吉田智彦・田淵尚一、井手義人 (交配採取=知識敬道・宮崎 司・小巻克巳)

第1表 「ベニオトメ」の主要特性*

系統または品種名	ベニオトメ	高系14号	コガネセンガン
いもの形状	長紡	長紡	紡
いもの形状整否	整	整	中
いもの大小	中	中	中
いもの大小整否	整	中	中
いもの皮色	赤紅	赤	黄白
いもの外観	やや上	やや上	中
食味	上	やや上	上
上いも収量(Kg/a)	251	145	212
同上対標準比(%)	118	71	100
商品化率(%)**	58	32	—

注) * 育成地の成績 (昭和60~63年, 標準栽培)

**鹿児島県農試の成績